

一般社団法人 日本災害看護学会 ネットワーク活動委員会

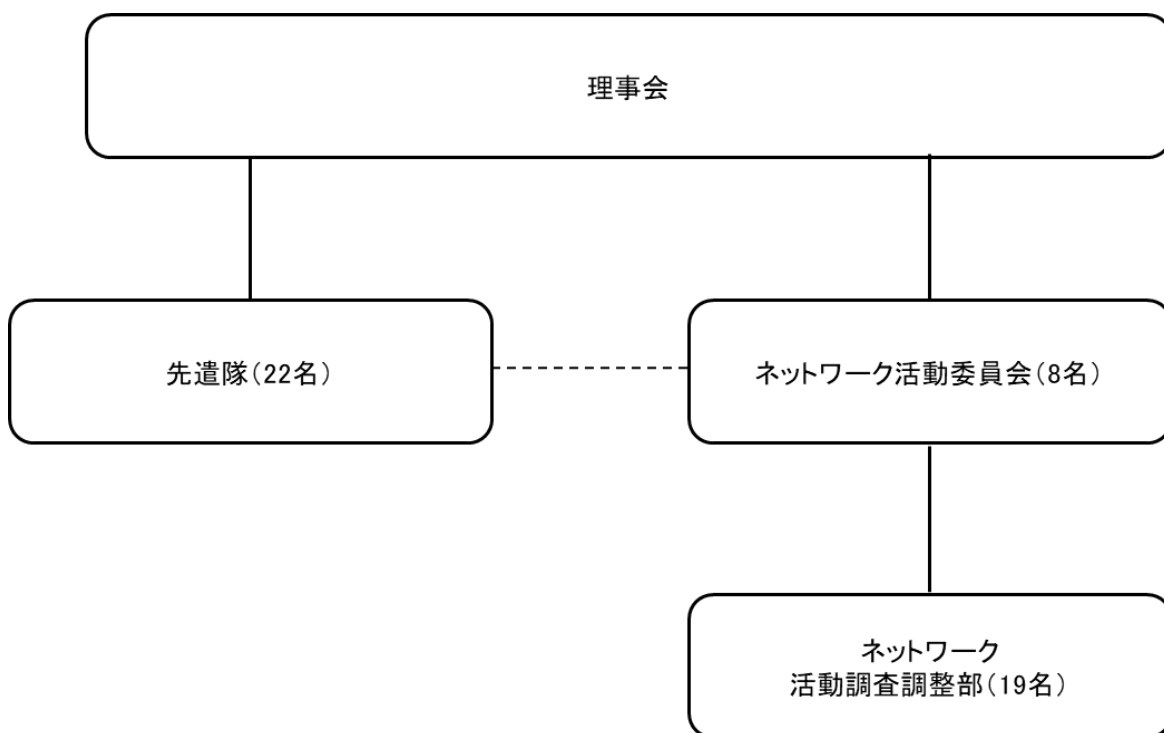
【ネットワーク活動委員会】

1. ネットワーク活動委員会の任務

災害看護に関する知識体系の確立に向けて国内災害時の看護ニーズについて調査・情報収集を行い、そのデータを蓄積し、災害看護学の構築に貢献することを目指します。

2. ネットワーク活動委員会の体制

本委員会は「ネットワーク活動委員会」・「先遣隊」・「ネットワーク活動調査・調整部」の 3 組織から構成されています。



3. ネットワーク活動委員会委員 (2021 年～)

委員長: 大山太

委員: 野島敬祐 (庶務)

櫻井大輔 (会計)

太田晴美 (庶務・会計補佐)

佐々木久美子、渡邊智恵 (先遣隊担当)

窪田直美、橋本翼 (調査調整部担当)

【ネットワーク活動調査・調整部活動】

1. ネットワーク活動調査調整部活動

月担当者(本部担当・東日本担当・西日本担当)を決め、国内災害を対象にモニタリングを行い、一定基準を超えた災害に対し、初期調査・初動調査・継続調査を行っています。

調査種類	内容
初期調査	初期調査とは、被災地に配慮した適切な方法(電話・インターネットなど)で、被災地の組織会員や個人会員等のネットワークを活用し、被害状況の確認、ケアニーズ等の把握を行うことを目的に調査を行う。
初動調査	初動調査とは、直接、被災地に赴き調査を行う方法を用い、直接的に被害状況の確認、ケアニーズ等の把握を目的とする。なお本調査実施する際は、調査時期と方法について、委員長、月担当者および被災地に近いメンバー間で検討し実施する。
継続調査	継続調査とは、初動調査で、長期的な被害が予想された場合、直接、被災地に赴き調査を行う方法を用い、直接的に被害状況の確認、被災外中長期の対応や課題等の把握を目的とする。なお本調査を実施する際は、調査時期と方法について、委員長、月担当者および被災地に近いメンバー間で検討し実施する。

2. ネットワーク活動調査・調整部 活動の基準

災害種類	活動基準
地震	震度 5 以上(震度 6 強以上は初動調査の必要性を検討する)
水害	避難警報が出て、避難所が開設された場合
竜巻	F2(藤田スケール)以上の竜巻(F3 以上は初動調査の必要性を検討する)
人為災害	負傷者が 15~20 名以上
その他	土砂災害、噴火、雪害、高潮・津波、副振動 etc.

3. ネットワーク活動調査調整部メンバー

担当	メンバー	50音順(敬称略)
本部担当 (6名)	城戸口親史(富山) 末永陽子(福岡) 立垣祐子(兵庫) 中信利恵子(広島) 深谷真智子(神奈川) 柳澤修平(千葉)	
東日本担当 (6名)	鈴木初恵(埼玉) 高取充祥(山梨) 夏目恵美子(愛知) 板東利恵(北海道) 福島芳子(福島) 渡邊和信(静岡)	
西日本担当 (7名)	片穂野邦子(長崎) 小寺直美(三重) 小林賢吾(熊本) 佐々木康介(高知) 畠山典子(大阪) 藤田さやか(兵庫) 矢野貴恵(奈良)	

